

# 創建

そうこん

戊辰150周年・1  
H31卒業研究テーマ一覧・2～3  
新任の紹介・3～5  
自主創造の基礎2／現場見学・5  
アーキテクトコース見学他・6  
学術論文・教室ニュース・7  
建築学教室名簿・8

2018・7・10 VOL. 53 NO. 2 (通巻168号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■



今年は明治150周年，そして福島では「戊辰150周年」  
会津若松：鶴ヶ城・二本松：霞ヶ城・白河：小峰城



この記念すべき年に，福島に残る歴史の痕跡を巡り，当時の人々の思いを想像し，時空を超えた体験を。

## 平成31年度 卒業研究テーマ一覧

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されている卒業研究テーマを参照のうえ、所属する研究室を選択しましょう。  
\*平成30年7月現在の情報

### 構造・材料系

#### ■材料

出村 克 宣 教授〔論文〕

齋藤 俊 克 専任講師〔論文〕

#### 建築材料学研究室

1. ポーラスコンクリートの性能評価
2. ポリマーセメントモルタルの性能評価法
3. 補修用ポリマーセメントモルタルの耐久性
4. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
5. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
6. 高耐久性塗料の性能評価

サンジェイ・パリーク 准教授〔論文〕

#### 鉄筋コンクリート（RC）構造・材料研究室

1. 自己治癒・自己修復機能を有するコンクリートの開発
2. ジオポリマー（セメント使用しない）コンクリートの開発
3. 建築材料及び高強度コンクリートの防火・耐火性能とその改良について研究
4. 放射能による汚染物格納のため超重量・遮蔽コンクリートの研究開発
5. インド住宅用の省エネ新構法や歴史的石造建造物調査・保存の研究

#### ■構造

浅里 和 茂 教授〔論文〕

堀川 真 之 助教〔論文〕

#### 鋼構造デザイン研究室

1. 応答解析による鉄骨骨組の地震時挙動に関する研究
2. 高層RC造建物の動的挙動評価に関する解析的研究
3. RC部材の短期性能評価に関する実験・解析的研究
4. 高力ボルト接合部の弾塑性挙動に関する実験的研究
5. 鋼構造接合部のFEMによる耐力評価に関する研究
6. 県内公共建築物の耐震データベース化に関する研究

G・ブントラ・ステンリー 教授〔論文〕

#### コンピューテーション応用力学研究室

1. 自然現象や生物の行動的なアルゴリズムを利用した建築構造物の最適化に関する研究
2. 無重力の状態で自己釣り合い・自己展開できる建築構造物（テンセグリティ）の研究
3. 折り紙の幾何学理論に基づいて数値解析的研究
4. 大地震時、建築物と基礎（地盤）の相互作用による地盤沈下防止・液状化対策・免震効果の研究
5. プログラミング・スキルを磨くことにより、最先端の構造解析と構造デザインに関する研究

千葉 正 裕 教授〔論文〕

日比野 巧 助教〔論文〕

#### 振動システム研究室

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 細長い平面形を有する建物の立体振動性状に関する研究
3. 建物の近似立体振動解析法に関する研究
4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
7. 各種構造解析プログラムの開発

野内 英 治 准教授〔論文〕

#### 空間構造システム研究室

1. 空間構造に関する研究
2. 構造物の非線形解析に関する研究
3. 木質構造に関する研究
4. 耐震設計法に関する調査・研究
5. 構造解析ソフトウェアの開発

### 計画・環境系

#### ■環境工学・設備

濱田 幸 雄 教授〔論文〕

宮崎 涉 助教〔論文・設計〕

#### 環境工学研究室

1. 高機能遮音木床の開発
2. 風車音の測定法に関する研究
3. 風力発電施設からの騒音伝搬モデルの構築
4. 床衝撃音の評価方法に関する研究
5. 集合住宅の遮音性能水準に関する研究
6. 木質空間の印象評価に関する調査研究
7. 温泉街における街並み形成に関する研究

森山 修 治 教授〔論文・設計〕

#### 環境設備・防災研究室

1. 病院や住宅の省エネルギーと災害時の生活継続計画の研究
2. 古民家や歴史的建造物の防災と保護に関する研究
3. 古民家の居住快適性に関する研究
4. 浜通り地域の津波避難計画に関する研究
5. 木質内装教室の温熱環境評価に関する研究

#### ■計画・歴史・設計

浦部 智 義 教授〔論文・設計〕

#### 建築計画研究室

1. 文化・医療・教育など施設・空間計画に関する研究
2. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究
3. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
4. 構法も含めた環境デザイン建築に関する研究
5. 震災後の復興・住まい・まちづくりに関する研究

速水清孝教授〔論文・設計〕

建築歴史意匠研究室

1. 建築・都市の歴史に関する研究
2. 建築・町並みの保存と活用に関する研究
3. 建築技術の歴史に関する研究
4. 建築家の作家論に関する研究
5. 建築技術者の職能と法制に関する研究

廣田篤彦教授〔論文・設計〕

都市計画研究室

1. 災害時におけるコンビニエンスストアの運用に関する研究
2. 災害時における車中泊の実態に関する研究
3. 福島県のイメージと風評被害に関する研究
4. 風評被害による産業・観光・就学・就業への影響に関する研究
5. 都市の嗜好性と観光資源に関する研究

渡部和生特任教授〔設計〕

空間デザイン研究室

1. 近代建築の空間デザインの再考
2. 設計デザインのタイプ別考察
3. これからの現代建築の展開の考察
4. 実際の建物を見ながら空間デザインを確認する

市岡綾子専任講師〔論文・設計〕

住環境計画研究室

1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
2. 子どもを中心とした環境行動に関する研究
3. 地域におけるまち資源の活用に関する研究
4. 福島県の居住環境・復興まちづくりに関する研究
5. 地域との協働によるまちづくり（須賀川市など）

山岸吉弘専任講師〔論文・設計〕

建築史研究室

1. 歴史的な住宅建築における架構と空間の関係
2. 集落の構造と形態に関する理論構築
3. 大工棟梁を中心とする建築の生産史と技術史
4. 「歴史理論」を踏まえた建築の理解と提案

山田義文専任講師〔論文・設計〕

医療・福祉建築デザイン研究室

1. 重度肢体不自由者や高齢者の地域居住環境整備
2. 地域包括ケアシステムと公共建築物との関係性
3. 医療・福祉建築物のインクルーシブデザイン
4. 医療・福祉建築における運営と建築特性の国際比較
5. 医療・福祉建築の開設や整備に関わる法規及び行政との関係性に関する研究

## 新任の紹介

教授 廣田 篤彦

担当科目：都市計画



今年度より、建築学科に着任致しました廣田です。生産工学部の大学院修了後、同校での助手・副手、及び大分県の私立大学を経て本学に参りました。主な担当科目は、都市計画や設計演習、計画系の建築実験などです。学生時代より、都市計画や環境計画に係る研究に従事しており、主に、土地利用や防災、地域活性化、観光などをテーマとした調査・研究に取り組んでいます。

「建築は雑学」でもあります。社会の問題に対応するため、幅広い視野で物事を捉えることが必要です。例えば、「今、世の中で何が問題となっているのか」「この地域で何が求められているのか」などを理解し、それに対して、建築・都市に関わる立場からどのような解決方法を提案できるのかということ、常日頃から考えることが肝要です。そのため、少なくとも自分に関わりのある街に関心や愛着を持つこと、そして問題意識を持つことが、より良い街づくりの実現へ繋がっていくものと思われ。特に、原発事故の影響を抱えた福島県の場合、故郷を離れた人々の帰郷と共に、産業や観光の衰退と崩壊したコミュニティの再生は重要課題の一つであり、教育・研究活動を通して考えていきたいと思っております。

専任講師 山田 義文

担当科目：建築計画



今年度、建築学科に着任致しました山田と申します。雁木通りが現存する新潟県上越市で生まれ育ちました。雪国で暮らす中で、寒冷積雪地域における高齢者や障がい者の地域居住環境を改善したいと考えるようになりました。大学から東京に出て、学部から一貫して医療・福祉建築デザインを専門とする研究室でご指導いただきました。大学院博士後期課程では、東大との交換留学でノルウェー科学技術大学（NTNU）に2年間留学する機会がありました。以来、北欧における医療・福祉建築の特性を国際比較しながら、個性豊かな生活を可能とする高齢者や障がい者の居住環境整備に関する研究を継続しています。

研究では、医療・福祉施設で支援に携わる専門職の皆様とヒアリングする機会もあります。それに備え、大学での研究や講義を続けながら専門学校に入学して、北海道の福祉施設での実習や学修を積み重ね、この3月に社会福祉士の国家試験に合格致しました。

今後は、建築学と社会福祉学の双方の知見から、将来のニーズに順応する、すべてのひとにやさしい医療・福祉建築デザインを探索し続けて参ります。日々の教育研究を通して学生の皆さんに寄り添いながらロハス工学の進展に努め、地域社会に貢献して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 新任の紹介

### 非常勤講師 森田 健一

担当科目：建築施工Ⅱ



こんにちは。日大工学部建築学科OBの森田です。この度、縁あって「建築施工Ⅱ」の授業を担当することになりました。短いお付き合いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

大学・大学院時代は、構造系研究室（浅里教授、千葉教授は1つ上の先輩です。）で構造解析を中心にコンピュータと格闘する日々でした。就職する頃はちょうど「建設業冬の時代」と言われておりましたが、運良く建設会社に拾われ、いわゆる「現場監督」として社会人生活をスタートさせました。以来30余年の間、首都圏の建築現場を中心に海外現場や管理部門も経験してきました。携わった建物は、超高層マンション、超高層オフィスビル、学校、ホールを含む公共施設、特養老人ホーム、企業の研究所等多岐に亘ります。

建築現場にはいわゆる3K（きつい、汚い、危険）のイメージを持たれている方もいると思いますが、最近は働き方改革やIT、ロボット化など、現場を取り巻く環境も変化しつつあります。建築の基本は現場にあり、その基本を通じてものづくりの楽しさをお伝えできれば、と思っています。

### 非常勤講師 田中 直樹

担当科目：建築設計演習Ⅰ



今年度、非常勤講師として「建築設計演習Ⅰ」を担当させていただいている田中直樹です。私は大学卒業後、10年間の組織事務所勤務を経て、出身地である福島県伊達市にUターンし、建築士事務所を営んでいます。今世紀初頭に独立したので、今年で18年目、主に住宅の設計・工事監理を業としています。

学生時代は製図の時間は好きでしたが、学業よりも社会勉強？に時間を費やし過ぎたように思います。運よく（株）伊藤喜三郎建築研究所に就職できたことで、建築士の道を歩むこととなり、大規模な医療福祉施設を得意とする社内の本流からは外れた、研修施設や小さな博物館、住宅などを担当する機会を与えられたことで、建築士として独立する素養を得ました。独立後は、建築の五感に関わる要素、社会的に求められる要素を総合的にデザインすることを旨に設計活動に励んでいます。

3.11の原発災害では、私たちが依って立つ現代の社会基盤の危さを肌で体感しました。原発に限らず、利便性や経済性という名のもとに大人たちが作り上げてきたこの社会のしくみは、我々を本当に幸せにするためのものなのか、一から問い直してみる必要があると強く感じます。「ロハス」を提唱する日大工学部、この絶好の機会を生かして、それぞれの課題に存分に取り組んでください。

### 非常勤講師 金谷 祐昭

担当科目：建築測量演習



建築学科の皆様、初めまして。金谷祐昭と申します。今年度から建築測量実習を担当します。よろしくお願いいたします。

双葉郡富岡町の建設コンサルタント「株式会社ふたば」の空間情報部に所属しています。現在は主に、復興関連の測量調査業務に従事しております。20年以上測量に携わってきました。近年は3Dスキャナやドローンなどを測量でも使うようになり、未だに学ぶことばかりです。

20代の頃に青年海外協力隊員として、南太平洋の島嶼国であるサモアへ2年間行ってきました。同国の環境省地図作成課で、現地職員に地図作りを教えていました。サモア人は心も体も大きく、おおらかでした。主食のイモ類、果実、魚は年中採れ、家では豚、鶏が放し飼いで時々絞めて食材になり、みんなラグビーが大好きで、仕事は適度に。現代日本社会からみればうらやましい限りのワークライフバランスを実現していて、「生き方」を考えさせられました。

講師は初めてです。教えることは、教わることだと思っています。皆さんの反応や質問から教わることを楽しみに、測量の楽しさを伝えていきたいと考えています。

### 非常勤講師 佐藤 好男

担当科目：建築測量演習



今年度より建築測量演習を担当します佐藤好男です。日本大学大学院工学研究

科終了後、建設会社に就職し、建築現場の施工管理、積算、設計を経て、不動産鑑定、土地家屋調査士事務所勤務後、郡山市内にて平成6年に土地家屋調査士事務所を、平成15年に一級建築士事務所を開設しました。建築士としては、建築確認申請等の手続を中心に、土地家屋調査士としては、不動産登記・測量の業務を行っています。

建築物を建築するためには、土地が当然に必要であり、その土地に関しての事前の法的調査や土地上あるいはその周辺の状況を観察・調査が必要となります。建築測量は、単に各種の測量方法を学ぶだけではなく、「観察力」をも養う重要な科目と言えます。

また、建築測量演習の中でも特に敷地測量は、建築計画に必要な敷地形状、地物、高低差、面積、境界線等の資料収集が必須であるため、建築測量の必要性や重要性について、実務での経験を授業に取り入れながら、皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

## 新任の紹介

非常勤講師 青木 淑子

担当科目：自主創造の基礎2



非常勤講師として自主創造の基礎2で講義を受け持たせていただく青木淑子です。

高校時代から半世紀にわたり郡山市で過ごした私にとって「日大」は、我が町の大学として身近な存在でした。とはいえ、文系の私は、福島大学を卒業し県立学校の国語科教師となつてからは、高校演劇の大会で「日大附属高校」の、時にシュールで、時にリアルな舞台に度肝を抜かれたり感動させられたり・・・といった接点があるのみでした。

2008年富岡高校の校長職で退職した私は、3年後の2011年3月11日の震災時、郡山にいました。16日に富岡町川内村の方達がビッグパレットに避難してきてから、私は自分の生きる時間を、この福島の人災による被害の現状と、そこからどう立ち上がっていくかの過程に重ねていこうと思いました。昨年、私は富岡町に移住しました。約16000名の人口があった町は、現在500名弱の住民数。家々は解体され更地になった処が目立ちます。「家を建てる」ということは何を意味するのだろうか？「家を壊す」ということは何を意味するのだろうか？「家」とは？帰る場所とは？・・・私が今、直面している崩壊と創生の狭間にある町の現状を伝えることが、「建築」を学ぶ若者に何を生み出す芽となるか・・・大切な出会いの場となると信じています。よろしくお願いいたします。

## 自主創造の基礎2（計画系）

日本大学では、全学部共通の初年次教育科目として「自主創造の基礎」を設置した。それに伴い、工学部では、平成29年度カリキュラムより、前学期は総合教育の教員によるアクティブ・ラーニングが、後学期は学科ごとに独自の教育が施されている。建築学科では構造・材料・環境・計画の4分野で、設定されたそれぞれの課題を、少人数のグループ演習を通してチームワークを学ぶカリキュラムを作成した。

今回は、計画系で実施している内容を紹介する。昨年度は12月2日（土）、3.11富岡町を語る会の協力のもと、震災後の建築について考えることをテーマに実施した。1コマは非常勤講師の青木淑子先生（3.11富岡町を語る会会長）による講演、2コマは事前レポートと講演をもとにした発表レポート作成、3コマにはクラスごとの全グループ発表プレゼンテーションを行い、3.11富岡町を語る会の語り部の皆さんから講評をいただいた（3クラスに分かれ、47班で実施した）。

3.11あの日、富岡町では何が起きていたのか、1枚の写真の背景を知ることで見える真実は、当時小学生だった1年次生には新鮮だったようだ。その後、今日に至るまで何が起きているのか、報道などではあまり語られない事実を知る機会には有意義であったと思われる。この演習をきっかけに富岡町の今を知るために富岡町を訪れる学生が、一人でも多く現れてほしい。語り部さんの話を聞き、想像力豊かな学生が次世代へと語るべき内容を深く理解し、教訓として学び、やがて小さな語り部として語り継ぐ姿を期待したい（文責：市岡）。

## 日大東北高校新校舎杭工事を見学して

大学院博士前期課程1年 桐生 翔太

千葉先生の大学院の授業の中で、現在施工されている日本大学東北高校新校舎建設工事の現場を見学させて頂きました。この現場の所長は、本学建築学科のOBの方が担当されています。今回、見学したのは杭工事で、本工事では、セメントミルクを充填した杭穴にコンクリートなどによって造られた杭を埋め込むHyper-MEGA工法が用いられています。

まず、仮設事務所にて担当者の方から使用する杭の説明を受けました。ボーリング柱状図を見ながら、どの土層がどれだけの強度を持ち、どんな意図があってどの土層に杭を支持させるのかも説明して下さいました。

その後、現場でセメントミルクを充填しつつ掘削を進める様子を間近で見学しました。埋め込み前の節杭を見て、触りながら、工場での製造法についてもお話をお聞きました。他にも、掘削の消費電気量から地盤の硬さを算出して記録していく様子や掘削が進むにつれてセメントミルクが溢れていく様子を見学しました。また、掘削機のヘッドも見せて頂き、根固め部構築に必要な拡大翼が開閉する様子や掘削前後のヘッドを比較して、砂層の掘削によって鉄爪がどれだけ摩耗するのかも学びました。

工事は着々と進行しています。これからも何度か見学させて頂けるとのことですから、工事が竣工するまでの一連の流れを見られることでしょう。同じ現場を何度も、着工から順番に見られる機会はなかなかありません。この機会を有効に活用し、私が大学院を修了するまでの約一年半の間に、教科書などでしか見たことがなかった工事の流れを体験して、より活きた知識として刻みつけようと思います。



掘削中の杭穴の様子



掘削ヘッド



節杭

## アーキテクトコース見学会

## 先達の建築に学んで課題設計に臨む

3年次生 高野 緑

私たちは設計演習において毎回、課題である美術館・図書館のエスキースを重ねて来ましたが、5月最後の回では教室を出て見学会が行われました。見学先はこの演習を指導して頂いている渡部先生の3つの建物でした。

最初に訪れた光の学校は、支援学校という言葉から受けるイメージとは違い、シャープで冷たい外観が印象的でした。しかし中に入ると外とは違った温かみがあり、生徒も家のように落ち着いて過ごすことができていると感じました。寄宿舎はプライベートからパブリックへと空間が段階的に展開しており、学校としての緊張感も保っていました。

この学校の一番の見せ場である「光のスロープ」のあるホールは魅力的で、スロープの壁面に設けられた採光窓は形状や位置にまで細やかな工夫が凝らされ、トップライトから降りてくる光と相俟って、質の良い雰囲気が醸し出されていました。隣接する病院との関係性もよく考慮されており、とても勉強になりました。

次に訪れた太田看護専門学校も、やはり学校と言うからには硬派でガッシリした建物を想像していましたが、外部は、湾曲した一面ガラス張りで線の細さが印象的な建物でした。一方内部はそれとは対照的に、ガラス面からの光を全体に受けた、明るく骨太で健康的な空間で、柱の1本1本までもがデザインとして機能しているように感じました。しかも建物の1階から2階に上がるための階段がなく、全てスロープを利用するというのは驚きでした。

最後に訪れたファミリーハウス桔梗は、以前建築誌で見しており、演習課題の参考とした建物でした。外観は涼しげな印象で、中に入ると壁面上部から空の景色が飛び込んできて爽やかな空間になっていました。特に印象に残ったのがエントランスからホールを抜けてその奥にあるスペースAの空間です。この空間の天井は低く暗く感じましたが、直接的な採光窓の代わりにトップライトからすとんと光が落ちておりとても魅力的でした。雑誌で見えて以来、私もこの仕組みを取り入れたいと思っていたので、実際に体感することができ良い体験になりました。

今回の見学会は1人の建築家のエッセンスとも言える3つの空間を、一度に連続して体感する興味深いものでした。先生から自身の空間について直接解説して頂き、また当時施工を担当された本学の先輩から施工時のエピソードも伺いました。空間構成に関するデザインの・構造的な手法に加え、そうしたさまざまな基礎的事柄を学ぶことができました。今後の課題設計に役立てていきたいと思ひます。



施工を担当された本学の先輩の説明に耳を傾ける

## 逢瀬川第一取水場ポンプ室の保存と活用の提案

6月2日、本学非常勤講師・阿部直人先生の新スタジオのお披露目となった、JIA福島地域会の「建築家サロン」の場で、本学建築歴史意匠研究室が一昨年より取り組む「逢瀬川第一取水場ポンプ室」（郡山市桜木、1925頃）の保存に関する発表が行われました。

このポンプ室は、大正の人口増による水不足の解消のため建てられました。完成以来、長く地域に親しまれてきた桜並木と建物が織りなす景観に加えて、現存する県内の鉄筋コンクリート造としては「郡山市公会堂」（1924）に次いで古く、福島県の近代を考える上で重要な位置にある建物です。

近年、当初の役割を終え、解体の危機に瀕するこの建物の保存を訴えるとともに、残す以上に求められる活用の方策について、昨年度、3年生後期の設計演習課題と卒業設計で取り組んだ小野菜津実さん（浦部研4年）と矢代悠さん（速水研修士1年）が提案を行いました。

小野さんの作品（「イチジツシュウラク」）は、ポンプ室の完成後、住民が増えたというこの地域の成り立ちを手掛かりに、ポンプ室を中核施設と位置付け、わずか1日の滞在者も住民と捉えたと地域の新しい姿が考えられるという提案です。一方、矢代さんの作品（「大正・昭和郡山たてももの園」）は、古い建物の少ない郡山に、それでもまだ残る大正・昭和の遺構を集めた建物園を作ろうというものです。移築して展示するだけでなく、できる限り当初の用途で使い続けようとする提案でもありました。

それぞれの案に対して、JIAの建築家から様々な意見をいただき、有意義な会となりました（文責：速水）。



逢瀬川第一取水場ポンプ室



小野菜津実さんの作品

作品を前に発表する  
矢代さん・小野さん

## 学 術 論 文

\* 届け出があった記事を掲載

- ・山岸吉弘, 「近世相模国大山寺における十二坊と御師の建築について」, 日本建築学会計画系論文集, 第745号, pp. 505-515, March 2018.
- ・西田電, 齋藤俊克, 出村克宜, 我喜屋宗満, 「エマルジョン処理竹補強セメントモルタルの曲げ性状に及ぼす竹補強材処理用エマルジョンのガラス転移温度および養生方法の影響」, セメント・コンクリート論文集, Vol. 71, pp. 618-625, March 2018.
- ・Shota Kiryu and Buntara Sthenly Gan, Vibrational Analysis of Levy-Type Plates by Using SEM, Journal of Advanced Civil and Environmental Engineering, Vol. 1, pp. 18-29, April 2018.
- ・Dinh Kien Nguyen, Buntara S. Gan, et al., Nonlinear bending of elastoplastic functionally graded ceramic-metal beams subjected to nonuniform distributed loads, Applied Mathematics and Computation, Elsevier, Vol. 333, pp. 443-459, April 2018.
- ・岡田明也, 渡辺宗幸, 齋藤俊克, 出村克宜, 「RC構造物の断面修復部を模擬した供試体の屋外暴露試験による防せい性混和材の性能に関する一考察」, 日本建築学会技術報告集, Vol. 24, No. 57, pp. 523-528, June 2018.
- ・西田電, 齋藤俊克, 出村克宜, 掛川勝, 「試験時の応力増加速度並びに供試体形状および寸法がポリマーセメントモルタルの圧縮強さに及ぼす影響」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 40, No. 1, pp. 357-362, June 2018.
- ・堀川真之, 浅里和茂, 漆原秀明, 清水健次 「高強度RC柱に生じる初期応力が2方向曲げ性能に及ぼす影響」, コンクリート工学年次論文集, 日本コンクリート工学会, vol. 40, No. 2, pp. 115-120, June 2018.
- ・日比野巧, 千葉正裕, 「中規模地震を受けたRC造建物の耐震補強効果の検討」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 40, No. 2, pp. 1009-1014, June 2018

## 発 表 論 文

\* 届け出があった記事を掲載

- 2018 International Conference on Material Strength and Applied Mechanics (MSAM 2018)  
日時:平成30年4月10-13日 会場:北九州国際会議場(北九州市)  
・Dynamic Analytical Response of Pavement Plates to Positive and Negative phase of Friedlander Load  
○SW Alisjahbana, Safrilah, JCP Putra, A Asmi, I Alisjahbana, Shota Kiryu and Buntara S Gan
- 平成30年度日本火災学会研究発表会  
日時:平成30年5月29-30日 会場:北九州国際会議場(北九州市)  
・文化財建築を対象とした火災安全性の研究 —歴史的大規模木造宿泊施設を対象として—  
○栗原操生・森山修治
- 日本建築学会2018年度子ども教育支援建築会議全体会議  
日時:平成30年6月12日 会場:建築会館ホール  
・須賀川市議会議場の子ども向けパンフレット作成  
○市岡綾子
- 日本建築学会第81回東北支部研究報告会  
日時:平成30年6月16日 会場:青森県観光物産館アスパム(青森市)  
・文化財建築を対象とした火災安全性の研究 —歴史的大規模木造宿泊施設を対象として—  
○栗原操生・森山修治  
・初期応力を変動因子とした高強度RC柱の水平2方向荷重解析  
○漆原秀明・堀川真之・浅里和茂・清水健次  
・ポリマー混入率を調合因子とするポリマーセメントモルタルの耐久性の評価  
○西田電・齋藤俊克・出村克宜
- 4th International Conference on Rehabilitation and Maintenance in Civil Engineering (ICRMCE 2018)  
日時:平成30年7月11-12日 会場:Solo, Indonesia  
・Analysis of Steel Reinforced Functionally Graded Concrete Beam Cross Sections  
Shota Kiryu, Ay Lie Han, Ilham Nurhuda and Buntara S Gan

■浦部教授がキャンパス長を務める『かつらお復興キャンパス』の第1回大学連携会議が3月6日に開催された。

■森山教授は, 3月8日, 日本建築センターより, 防災性能審査委員会委員および防災性能評定委員会委員を委嘱された。

■森山教授は, 3月16日, 日本消防設備安全センターより, ガス系消火設備等評価専門委員会委員を委嘱され, 委員長に選出された。

■柳沼明日香さん(浦部研卒)が, 3月26日に行われたJIA東北学生卒業設計コンクール2018で最優秀賞を受賞し, 6月23日に行われたJIA全国学生卒業設計コンクールに出席, 一次審査を通過した。

■森山教授は, 3月30日, 国立研究開発法人建築研究所より, 防災型設備の計画・設計等に関する検討会委員を委嘱され, 委員長に選出された。

■浦部教授と浦部研究室が関わった, 福島アトラス02「避難社会とその住まいの地図集」が3月31日に発刊された。

■日本建築学会東北支部平成30年度役員に, 代議員速水教授, 常議員山岸専任講師が当選された。

■市岡専任講師は, 4月5日, 会津若松市より, 県立病院跡地活用基本構想策定支援業務委託プロポーザル選考委員会委員を委嘱された。

■市岡専任講師は, 4月6日, 環境省より, 低炭素・資源循環「まち・暮らし創生」FS委託業務の公募審査委員会委員を委嘱された。

■齋藤専任講師は, 4月13日, Polymers-in-Concrete委員会第174回定例会において, 「ポリマーセメントモルタルの性能評価に係る試験方法の検討」と題して講演された。

■齋藤専任講師は, 日本材料学会東北支部平成30年度常議員に選出された。

## 教室ニュース

■市岡専任講師と市岡研究室は, 5月13日, 須賀川市議会議場事務局協力のもと, 須賀川市議場見学会(傍聴席開放)を開催した。

■市岡専任講師は, 5月15日, 郡山市より, 都市計画審議会委員を再度委嘱され, 会長に選出された。

■速水教授は, 5月18日, 福島県建築士事務所協会青年部平成30年度定時総会で, 「福島県の歴史的建造物の現状とこれから」と題して講演された。

■出村教授は, 日本材料学会の第67期(平成30年度)編集委員会査読委員に就任された。

■市岡専任講師は, 6月1日, 須賀川市より, 須賀川市文化財保護審査委員会委員を委嘱

された。

■宮崎助教は, 6月1日, 会津若松市より, 会津若松市景観審議会委員を委嘱された。

■市岡専任講師は, 6月2日, 福島県復興祈念公園シンポジウム「公園から福島復興を考える」に, シンポジウムのパネリストとして登壇された。

■森山教授は, 6月13日, 総務省消防庁より, 超大規模防火対象物等における自衛消防活動のあり方に関する検討部会委員を委嘱され, 副部会長に選出された。

■福島県建築士会主催の第23回ふくしま住宅建築賞最優秀賞に阿部直人非常勤講師が設計された「集いの家」, 優秀賞に佐久間宏一非常勤講師が設計された「散歩道の家」が選ばれ, 6月15日に表彰された。

■浦部教授と浦部研究室が関わった, 葛尾村復興交流館「あぜりあ」が6月16日に落成し, 同日にオープンした。

■浦部教授らが執筆した, 「郡山・希望ヶ丘プロジェクト-福島住まい・まちづくりネットワークの活動拠点-」がBIOCITY(2018, No. 75)特集『東日本大震災、復興の光と影』に掲載された。

■人事:4月1日付で, 廣田篤彦教授と山田義文専任講師が着任された。また, 本学科に永年勤務され設計教育と研究に活躍された土方吉雄准教授, 鈴木晃教授が3月31日に退官された。

# 平成30年度 建築学教室教職員名簿

## ■専任教員

教授	授	浅浦千出	里部葉村田	和智正克	茂義裕宣	鋼建構	構	造	16号館	1階	106	(956-8734)
教授	授	濱速廣	田水篤	幸清孝彦	建近都	築環	計	画	45号館	3階	304	(956-8743)
教授	授	森渡野	山部内	和英	建建	築代	材	学	16号館	2階	204	(956-8733)
教授	授	S.N.パリー	修治	G.治生	建建	築基	料	学	9号館	1階	114	(956-8740)
教授	授	市齋山	岡藤	綾吉	建建	築用	工	学	16号館	3階	310	(956-8752)
教授	授	山日堀	岸田	義真	建建	築設	築	史	9号館	3階	310	(956-8872)
教授	授	宮崎	比野	川巧	建建	築材	設	画	9号館	3階	308	(956-8749)
特任教授	授	石田	壽一	一人	建建	築基	構	造	16号館	2階	206	(956-8735)
准教授	授	宇都宮	雅洋	介文	建建	築設	設	備	16号館	3階	311	(956-8751)
専任講師	師	熊倉	尾博	正文	建建	築用	力	計	45号館	3階	301	(956-8750)
専任講師	師	米田	正英	彦裕	建建	築材	料	学	16号館	2階	207	(956-8744)
専任講師	師	矢野	英	裕	建建	築材	計	学	9号館	1階	102	(956-8747)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築本	建	史	9号館	3階	309	(956-8737)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築計	力	学	45号館	3階	305	(956-8746)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築材	料	学	9号館	1階	114	(956-8740)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築本	建	史	9号館	3階	309	(956-8737)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築計	力	学	45号館	2階	205	(956-8741)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築計	力	学	16号館	2階	204	(956-8733)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築計	力	学	16号館	1階	106	(956-8734)
助教	教	堀宮	川崎	之涉	建建	築計	力	学	16号館	3階	310	(956-8752)

## ■大学院：兼任教員・非常勤講師

非常勤講師	師	石田	壽一	一人	建	築	職	業	倫	理	特	論	16号館	3階	310	(956-8752)		
非常勤講師	師	宇都宮	雅洋	介文	建	築	職	業	倫	理	特	論	16号館	3階	310	(956-8752)		
非常勤講師	師	熊倉	尾博	正文	建	築	設	計	画	特	別	実	習	45号館	3階	304	(956-8743)	
非常勤講師	師	米田	正英	彦裕	建	築	構	造	設	計	特	別	実	習	16号館	1階	106	(956-8734)
非常勤講師	師	矢野	英	裕	建	築	職	業	倫	理	特	論	16号館	3階	310	(956-8752)		
非常勤講師	師	矢野	英	裕	建	築	意	匠	特	論			9号館	3階	310	(956-8872)		

## ■学部：非常勤講師

非常勤講師	師	青木	淑子	一人	自	主	創	造	の	基	礎	2	45号館	3階	305	(956-8746)
非常勤講師	師	阿部	直人	昭由	自	建	築	計	画	設	計		45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	師	金谷	祐幸	隆男	建	建	築	測	量	演	習		9号館	1階	102	(956-8747)
非常勤講師	師	倉持	幸道	隆男	建	建	築	築	設	計	演	習	16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	師	栗原	藤道	孝男	建	建	築	築	設	計	演	習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	師	近藤	道孝	孝男	建	建	築	築	設	計	演	習	9号館	3階	310	(956-8872)
非常勤講師	師	境久	宏英	一次	建	建	築	築	設	計	演	習	16号館	2階	206	(956-8735)
非常勤講師	師	佐藤	好男	志樹	建	建	築	築	構	造	設	計	45号館	3階	304	(956-8743)
非常勤講師	師	佐藤	好男	志樹	建	建	築	築	測	量	演	習	16号館	2階	207	(956-8744)
非常勤講師	師	高橋	岳直	美子	建	建	築	築	設	計	演	習	9号館	1階	102	(956-8747)
非常勤講師	師	田中	直雅	美子	建	建	築	築	設	計	演	習	9号館	3階	310	(956-8872)
非常勤講師	師	田中	直雅	美子	建	建	築	築	設	計	演	習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	師	寺嶋	守実	宏仁	建	建	築	築	設	計	演	習	16号館	3階	311	(956-8751)
非常勤講師	師	中尾	知宏	仁雄	建	建	築	築	設	計	演	習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	師	鍋田	知一	仁雄	建	建	築	築	情	報	処	理	45号館	2階	205	(956-8741)
非常勤講師	師	原澤	方吉	延雄	建	建	築	築	造	形	演	習	45号館	3階	305	(956-8746)
非常勤講師	師	土方	山延	朗子	建	建	築	築	構	造	設	計	16号館	2階	207	(956-8744)
非常勤講師	師	檜山	野由	美子	建	建	築	築	関	連	法	規	16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	師	平野	真美	司一	建	建	築	築	設	計	演	習	45号館	3階	301	(956-8750)
非常勤講師	師	藤山	真美	司一	建	建	築	築	設	計	演	習	45号館	3階	304	(956-8743)
非常勤講師	師	古河	健一	宏	イ	ン	テ	リ	ア	デ	ザ	イ	16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	師	森田	健一	宏	特	別	講	義					16号館	3階	309	(956-8730)
非常勤講師	師	若井	正一	宏	建	築	人	間	工	学			16号館	2階	204	(956-8733)
非常勤講師	師	渡邊	宏		建	築	人	間	工	学			16号館	3階	310	(956-8752)
非常勤講師	師	渡邊	宏		建	築	計	画	設	計			45号館	3階	301	(956-8750)

## ■事務職員

教室事務	小	林まゆみ	建築学科センター	16号館	3階	309	(956-8730)
------	---	------	----------	------	----	-----	------------